

アーティストに向けた衣装デザインにおける素材表現の可能性

Artists' Possibilities of Material Expression in Costume Design

Bunka Fashion Graduate University

Miki Imamura

Shinichi Kushigemachi

文化ファッション大学院大学

今村 未来

櫛下町 伸一

要旨：アーティスト（歌手・ダンサー等）の個性を可視化し、強く印象づけるためにも衣装デザインは重要である。SNS の普及に伴い、自己発信するためのビジュアル、衣装の類は今後益々重要視され、時代と共に変化して行くことが予想される。そこで、本研究では衣装デザインにおける素材表現に着目した。従来の衣装デザインにおける、スタイル画から始まるデザイン発想ではなく、1つの素材に向き合うことから発想を始めた。その素材の特性を活かした手加工による表現方法を模索すると、機械では表現できないような繊細さと温もりが感じられ、衣装デザインのビジュアルとして効果的な印象を与えることができる。その素材表現を軸とした衣装デザインを提案・制作を行い、アーティストに着用してもらうことで、オリジナル素材が彼らの活動に関してどのような効果をもたらすかと同時に、そのプロセスから発展するデザインの可能性を追求することとした。

1. はじめに

アーティスト（歌手・ダンサー等）は、日々の活動において常に自身と向き合い、誰かに強いメッセージを伝えようと表現し続けている。デジタル化の著しい現代では、アーティストの表現の伝達手段が多様化し、それに伴って彼らが着用する衣装は第三者にビジュアルイメージとして強く印象付けられている。

現代社会において人々がファッションに感じる価値観は、以前のそれと比べて大きく変化してきている。しかし、ファッションはいつの時代においても必ず人が身につけるものであり、また夢や希望を与える力を持っており、これは未来永劫、

変わらぬ真理と考える。そこで、アーティストが身につける衣装には、彼らの表現を後押しするようなイメージと共に、常に可能性を感じさせるデザインを追求することに衣装としての価値観があると思われる。

そこで、本研究では衣装制作におけるデザインの可能性を素材表現に見だし、衣装デザインがアーティストの活動に関してどのような効果をもたらすと同時に、そのプロセスから発展するデザインの可能性を追求する。

2. 使用素材の選定と表現方法

衣装デザインで重要な要素の1つとして、素材表現が挙げられる。衣装は普段着には使用しないような素材が頻繁に使われ、布地以外の素材を使

提出年月日：2021年1月15日

受理年月日：2021年2月28日

用する場合もあることから、素材の選択肢の自由度が高い。今回は、舞台衣装で頻繁に使用されるチュールに特化して、この素材の特性を活かした表現方法を追求していく。

チュールというと、多くの人にはバレエ衣装のチュチュをイメージする。チュチュは主に2種類あり、丈が短い「クラシックチュチュ」と、丈が長い「ロマンチックチュチュ」に分類されている。クラシックチュチュに使用されるチュールは、デニール数が高く張り感が強いものが使用され、衣装の腰から横に広がっており、ダンサーの脚の表現を効果的に魅せることができる。反対にロマンチックチュチュは、感触が柔らかくデニール数が低いソフトチュールを使用したものが多く、ダンサーの動きに合わせて優雅に広がるのが特徴である。他にもチュールは衣装のボリューム出しとしてのパニエにも頻繁に使用されるなど、舞台衣装において主要素材といっても過言ではない。

最近では、バレリーナをイメージとした、チュールを数枚重ねたスカートや、トレンドでもあるシースルススタイルからチュールのみで作られた重ね着用のトップスなど、日常のお洒落着としてのアイテムも市場で見られる。また、近年のコレクションブランドでもチュールをメインにコレクション展開するブランドなども見受けられる。このように、チュールをあしらったデザインを目にする機会が増えたが、その使用用途や加工技法などは至ってシンプルなものが多く、チュチュを模倣したようなギャザー使いがほとんどである。さらに、チュールの軽さや断ち切り処理、カラーバリエーションが豊富なところなど、素材としては面白い表現を生み出す可能性を秘めている。本研究では、ナイロンチュールの熱可塑性を活かし、アイロンを使ったハンドプリーツによるオリジナルの表現方法を研究し、衣装デザインにどのような効果をもたらすかを追求する。

3.チュールのハンドプリーツ加工

3-1.ハンドプリーツ加工の実験及び結果・条件

[準備物]

- ・15 D ソフトチュール (ナイロン) : 50cm×50cm
 - ・15 D ソフトチュール (ポリエステル) : 50cm×50cm
 - ・30 D チュール (ナイロン) : 50cm×50cm
 - ・家庭用アイロン (T-faL) : 設定温度 150°C
- ※D・・・デニール

プリーツ加工の方法として、まず初めにチュールを地の目方向から 90° 右に倒して配置する。次に、チュールの上にアイロンを置き (図 1)、アイロンからはみ出る両サイドのチュールを掴み、細かく手前に寄せていく (図 2、図 3)。



図 1 チュールの上にアイロンを配置した様子



図 2 アイロンでチュールを寄せる様子①



図3 アイロンでチュールを寄せる様子②

この時、それぞれ横に引っ張るようなイメージでひたすら細かく指を動かすことで、より繊細なプリーツを寄せることができた。最後まで到達したら、アイロンからスチームを出し、上から体重をかけて3秒ほど圧力を加えた後アイロンを離し、熱を逃がすと寄せたプリーツの形状が記憶された(図4)。



図4 プリーツ加工がかかった様子

この実験は、バキューム機能が備わっているアイロンでも同様に行う。基本的な手順は前述同様で、最後のスチーム後に素早くバキュームを掛けて熱を逃がす。この仕上げにバキュームを使用することで、プリーツの収まりが非常に美しく、真っ直ぐ綺麗に伸びたプリーツとなった。プリーツ加工が施されている部分と無加工な部分の差を顕著に見せることで、風合いにメリハリが付き、ディテールそのものをデザインに直接反映しやすいこと

から、今回のプリーツ加工を行う際は必ずバキューム付きアイロンを利用することが必須であるとわかった。また、前述でアイロンの温度設定は150°Cとあるが、これより温度が高いとナイロンチュールは溶けて縮んでしまい、反対に温度が低いとプリーツの線が表れず、ぼやけた印象のディテールとなった。ナイロンチュールは薄布であるため、アイロン掛けは神経を使うが、150°Cの数値を守ることで綿密で綺麗なヒダのプリーツを作ることができることがわかった。

次に、30D ナイロンチュールでも同じ条件でハンドプリーツを掛けてみたが、30Dになるとチュール特有のハリ感があるため手で皺を寄せることは大変困難であった。結果として15D ソフトチュールのような繊細なプリーツを寄せることはできず、歪んだ中途半端な皺がついた。また、ポリエステル製の15D ソフトチュールを使用して同じ条件下でプリーツ加工を施してみると、ナイロンチュール時のような適度な硬さのハリ感はあまり出ず、ポリエステル特有の腰や張りを維持しながらの柔らかい風合いのプリーツ加工となった(図5)。

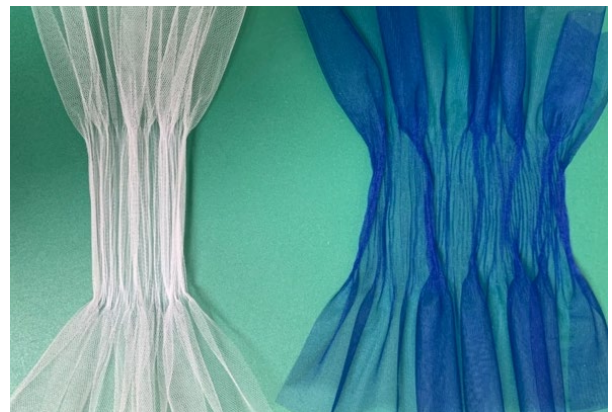


図5 チュールの素材別によるプリーツ加工の比較(左:ナイロン/右:ポリエステル)

この実験結果をナイロンとポリエステルの素材の特性から考察すると、ポリエステルの方がナイロンに比べて見かけのヤング率*が高いことからこのような実験結果になったのではないかと推測で

きる。ナイロンは衣料用繊維中では最も引張り強度と伸度が大きく、ヤング率が小さい。この性質に、熱可塑性が加わることで、より細かなプリーツを形成することが可能となったと考えられる¹⁾。

3-2.ハンドプリーツ加工の効果・発展

このハンドプリーツの実験を通して、非常に細かいプリーツ掛けが可能なことや、プリーツ線がランダムに表れる面白さから、機械では作れないハンドクラフトの温かみのある素材表現を知ることができた。また、ソフトチュール独自の透明感ある色味でプリーツ加工を行うことにより、ヒダが集まり布地が密になっている部分とプリーツをかけていない部分で色の濃淡が生まれ、綺麗な色のグラデーションを作ることができた(図6)(図7)。

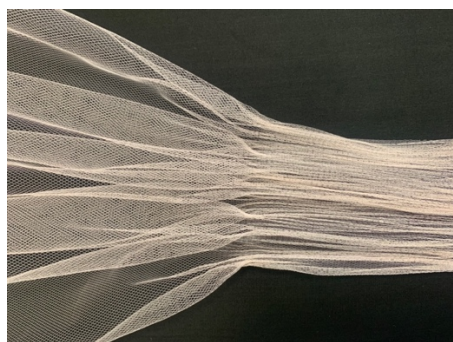


図6 プリーツ加工による見た目の色の変化①

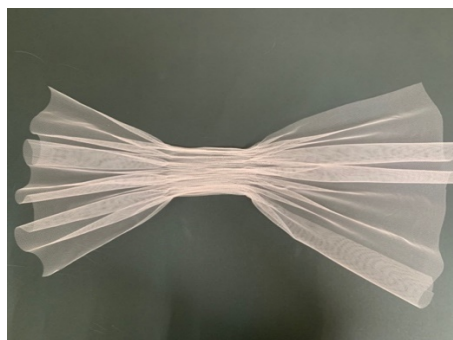


図7 プリーツ加工による見た目の色の変化②

プリーツの線の長さにおいては、ハンドアイロンで作るため、繋がりよくアイロンを掛ければ特に問題なく長さを出すことはできる。しかし、プリーツをかけられる縦の長さはアイロンの幅に比例するため、この素材を使用して1着分を作るとな

ると大量にプリーツのパーツが必要になってくる。幸い、チュールは断ち切りが可能な素材であるため、このパーツをいくつか用意し、重ねて繋ぎ合わせて1つのマテリアルとして扱うことで服をデザインすることが可能と考える。また、重ねること色味の濃淡がより強調され、衣装デザインとしての華やかな印象を表現することができるとイメージし、次にサンプルを作成した。

3-1 で作成したサンプルと同じ条件のナイロンチュールを6つ用意する。今回は、チュールの半分は無加工、残り半分はプリーツを掛けてみた(図8)。



図8 プリーツ加工されたチュール

(左半分：プリーツ加工 / 右半分：無加工)

これらを1つのマテリアルとして成立させるために土台に30Dチュールを使用し、その上にパーツを重ねて配置し、躰をして固定した(図9)。

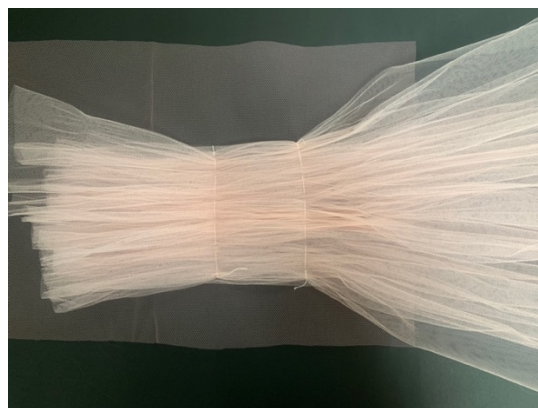


図9 土台チュールにプリーツ加工のチュールを躰でとめた様子

次に、プリーツ部分に2本ミシンをかけ、プリー

ツの収まりを良くする。プリーツ加工側のチュールをミシン目に沿って反対方向に 180° 倒し、チュールを抑えながらミシン目から 4.5cm の幅のミシンをかける (図 10)。最後の仕上げに、チュールの折り目 (上部) から 1cm のステッチをかけ、そこから 0.8cm 外側をロータリーカッターでカットし、土台のチュールはステッチより外側部分をカットする (図 11)。



図 10 ミシンをかけた様子



図 11 余分なチュールをカットした様子

サンプル作成の結果、ギャザーをかけたチュールとは違った印象を与えることができた (図 12)。



図 12 サンプル (完成)

プリーツ加工部分と無加工部分の風合いの違いが顕著に表れ、色味においてもより濃淡がはっきりとし、華やかなイメージを表現できた。また、軽さを保ちながらもボリューム感を表現できたことにより、衣装デザインとしてこの素材を使用した場合も着用者にとって快適な素材であると考えられる。また、このオリジナル素材のステッチ部分は硬くはならず、一定の方向であれば曲げることが容易であり、スポンジのような弾力がある。綺麗な曲線を作ることができるため、独特なシルエットを表現するには最適である。

4.オリジナル素材を活かしたデザイン・実物制作

実際に、このサンプルを活かした衣装デザインを提案し、実物制作を行った。

4-1.デザイン提案

制作したオリジナル素材のディテールを活かしてデザイン展開をした。ここでは主にチュールをメインにしたドレスタイプと、ベーシックなアイテムに装飾としてチュールをあしらったデザインを提案した (図 13)。



図 13 デザインスケッチ

本研究では、オリジナル素材の効果が全面に表れるデザイン②を実物製作する。

4-2.実物製作

デザイン②の製作で使用する素材は下記の通りである。

[使用素材]

15D ソフトチュール (ナイロン) : 30m

ダンボールニット (ポリエステル) : 0.3m

スナップボタン : 2 個

シャッペスパン糸

主な使用素材はペールグレーの 15D ソフトチュールである。はじめにハンドプリーツをかけたパーツを大量に準備する。そして、適度に重ねたら軽く躰をかけ、9AR ボディに素材を併せながら、チュールのボリュームがデザイン画のシルエットに近づくように重ねる枚数を調整する (図 14)。丈の長さは最終的にカットして整えるため、用意するチュールパーツの長さは、デザイン画のバラ

ンスより長めにしておくことが大切である。



図 14 9AR ボディにチュール合わせた様子 (左上 : 前、右上 : 横、下 : 後ろ)

図 14 のようにデザイン画のシルエットに近づいたら、前・横・後ろでそれぞれのブロックにチュールを分けてそれぞれ 1 つのブロックになるよう縫い合わせる。最後に 3 つのブロック (前・横・後ろ) を繋ぎ合わせる作業を行う時、チュールを縫い合わせる角度がシルエットに大きく影響するため、ボディに着用した状態で躰を入念に行ってからミシンをかけることが大切である。

パーツを繋ぎ合わせたら、着脱用のストラップをダンボールニットで制作し、ドレス本体に縫い合わせ、最後にチュールの長さをカットして仕上げる (図 15)。



図 15 完成図：チュールドレス（パールグレー）
（左上：正面 / 右上、左下：横、右下：後ろ）

5.アーティストの着用

スタイリストから衣装リースの依頼の問い合わせがあり、チュールドレスをアーティストに着用してもらう機会を得ることができた。

[リース詳細]

案件：Music Video（以下 MV）

曲：「Say So-Japanese version- tofubeats Remix」

歌手：Rainych

着用者：景井ひな(女優、TikToker)

今回の MV は YouTube 登録者数 116 万人を超える、インドネシア人 Youtuber の Rainych が日本デビューのために作成されたもので、2020 年 10 月 2 日（金）にリリースされた⁴。着用者の景井ひな氏は、TikTok 開始わずか 9 ヶ月で国内単独最速で 100 万人フォロワーを達成し、国内女性 No.1 フォロワー数であり、現在はホリプロデジタルエンターテインメントに所属し、モデル・女優など活動

の幅を広げているアーティストである⁵。今回、筆者が実際に撮影現場に赴くことは叶わなかったが、完成した MV からチュールドレスがアーティストと映像にどのような影響を及ぼしたのかを考えた。また、スタイリストにこのドレスを選んだ動機や実際の衣装の使用感をヒアリングし、下記 2 点に着目してこの衣装の効果を考察した。

- ・着用時に起こる衣装と動きの関係性
- ・衣装が与えたアーティスト及び映像への効果

5-1.着用時に起こる衣装と動きの関係性

この MV は景井氏が様々な衣装を着用し、場面毎に表情を目まぐるしく変えながら展開されるのが特徴である。着用のコーディネートは主に 4 つあり、その中の 1 つとしてチュールドレスが使用されている。

MV 上でこの衣装が登場するシーンはいくつかあるが、動きのあるシーンで使用されているところが多く見受けられた。MV 内（03:12～）でトランポリン上で飛び跳ねるシーンがあるが、景井氏が飛び跳ねることによりチュールの束が横に広がり、独特な動きが見られた（図 16）～（図 18）。



図 16 トランポリン上で飛ぶシーン①（MV 内）



図 17 トランポリン上で飛ぶシーン② (MV 内)



図 18 トランポリン上で飛ぶシーン③ (MV 内)

この衣装は、縫い目から裾にかけてはチュールがふらし状態である。例えるとチュールの短冊が沢山ついているような状態であり、人の動きと同時にその短冊がフリンジのように同調して動く。そのため、激しい動きをする際にはその動きに伴って素材自体も自在に変形し、独特なムーブメントを醸し出すことがわかった。

また、素材自体は1枚の布として繋がっていないため体の可動域は広い。チュールドレスのシルエットを崩さずに動くことができるということである。

また、MV 内 (02:54~) で大きく腕を使って紙を破くシーンがある。ここではバストアップのカットとなっているが、容易に腕を高くあげており、動きやすい衣装ということが理解できる (図 19)。



図 19 大きな紙を破くシーン (MV 内)

5-2. 衣装が与えたアーティスト及び映像への効果

この衣装が使用されている場面は MV 内でいくつか見られたが、特に印象的なシーンは風を送っているシーン (MV 内 : 01:26~/01:48~/03:30~) である。ここでは、衣装がふわふわと風になびいて彼女を包み込むような演出がされている。チュールのプリーツ加工を施したディテールは、非常に繊細に映っており、ゆらゆらと風になびく様子はまるで花びらのように美しいと感じた。映像内で比較すると、動画撮影の為の機材が映り込んでいることや、実際にスタッフとやりとりをしているシーンなどから、現実をイメージさせる演出が基本ベースとなっていることがわかる。それに対してこの風を送るシーンでは、背景はシンプルな1色、そして動画内に在るものは景井氏と衣装のみで構成されており、そこに衣装がゆらゆらとゆっくりとしたスピードでなびくことにより非現実的な印象を創り出している (図 20)。この衣装はアシンメトリーなデザインであるため、風がなびいた時はそれぞれの方向にチュールが散らばる性質があり複雑な布の動きが見られ、それにより非現実的な空気感を創り出すことができたのではないかと考える。



図 20 衣装が風になびくシーン (MV 内)

この衣装は前述の通り、素材の軽さや柔らかさから夢見心地でファンタジーな印象を視聴者に与えるということがわかった。この結果は筆者も予想していたことである。チュール素材といえばやはりクラシックバレエのチュチュというイメージがあり、その代表作であるチャイコフスキー3大バレエ（白鳥の湖、眠れる森の美女、くるみ割り人形）のような非現実的な世界の物語、つまりファンタジーということに繋がってしまうからである。このようにチュール素材はやはり単純にファンタジーを表現するためにしか活用できないのかと考えた際に、MV 内で他にも様々なシーンで衣装が使用されており、そちらに焦点を当ててみた。

画面上で機材が丸見えの現実的な印象のシーンでも、この衣装は度々登場する。その中で、ガムを膨らませるシーン（図 21）、自撮りのシーン（図 22）、野球バットで遊ぶシーン（図 23）は、見ていてシュールな感覚を覚えた。風を送っているシーンに対して、これらのシーンの彼女は“衣装を着させられている”という受動的な印象が強く、まるで着せ替え人形のように感じた。彼女がポーカーフェイスであることから表情から読み取れないということもあるが、衣装と着用者の間に距離を感じられ、その独特な在り方がシュールな映像として表現されていると考える。また、チュール衣装の非現実的要素が、このような現実的な舞台セッティングに映し出されることにより、この衣装は周りの現実的な部分をより際立たせる手助

けをしていると考える。



図 21 ガムを噛むシーン (MV 内)



図 22 自撮りをするシーン (MV 内)



図 23 バットでポーズをとるシーン (MV 内)

借用したスタイリストにこの衣装を選んだポイントを尋ねると、次のような回答があった。

「景井氏らしさ×シュールさ×可愛さの中間を狙いかった。クライアントからのスタイリングの要望の1つにボリュームがある服が欲しいとあり、いくつかの候補の中で一番今回のイメージに近かった。」

この衣装デザインは空気を含んだような独特なボリューム感が特徴であることから、着用するだけで見ている側に強く印象付けることができると考える。さらにスタイリストから、

「チュールの衣装は市場に出ているものだとキラキラした装飾的要素がついていることが多く、今回の衣装はシンプルであるが形はパンチが効いていて、でも色味がペールトーンというバランスが良かった。また、制作チームからの反応も良かった。」

という意見をもらうことができた。

6. 考察

6-1. 実物製作を通して

本研究では、「アーティストに向けた衣装デザインにおける素材表現の可能性」というテーマで、1つの素材に真摯に向き合い、何か新しい素材表現ができないか、衣装デザインを通して模索した。今回の使用素材のチュールは、舞台衣装で頻繁に使用されるという点で選んだが、裁断時は断ち切り可であることや、素材がナイロンであるため熱可塑性があり、丈夫であることなど加工を施すのに大変適している素材であった。本研究の熱可塑性を利用したチュールのハンドプリーツ加工は、機械では作れない繊細なレリーフを表現することができ、また手作業によるクチュールの要素を含みながら温かみのある表現方法として衣装デザインに落とし込むことができたと感じている。

また、チュールはメッシュのような編み地であるため、重ねることにより色味のバランスを自由に調節することができた。色は表現したいメッセージを伝える力があり、これはアーティストの着用時だけに限らないが、ビジュアルとして極めて重要な要素の1つである。チュールを何枚も重ねると色味の重なりが奥行きを出し、空間を通して衣服デザインにおける素材表現の可能性を示したことは、プリント地の平面とはまた違った味わいを作ることができたと感じている。

この素材の難点としては、プリーツ加工を施すのに相当な時間と手間を要する点である。全て手作

業で行われ、最終的にチュールを重ねてシルエットを形成する時もチュールをならしながら行い、動かないように1つ1つ躰で留め合わせてやっと思シシンがかけられるため、非常に手間がかかる。クチュールの作業内容であるが故の苦労とも考えられるが、効率を考えて加工方法を探ることも必要だと感じた。

次に、チュールの性質である皺になり易いという視点から、衣装の実用性としての保管方法について述べる。熱可塑性の効果があるためか、長期間丸めて保管しても特別形状の変化が出ることはなかった。プリーツがかかっている部分の皺はしっかりついてしまうものの、ハンギングして1日～2日放置しておくことで重力によりほぼ元通りの形になるということがわかった。この衣装は、皺がつきやすいという難点はあるが、このボリュームに対しての保管方法が限られないことが魅力の1つでもあると感じた。

本研究では1つの素材を追求することで、独自性のある衣装デザインに落とし込む際に効果的な素材表現が生まれた。今後も素材の魅力と特性を生かせるようなオリジナル素材を提案し、表現の可能性を追求していきたい。

6-2. アーティストと衣装の今後の関係性

デジタル社会となった現在では、誰もが自らSNS等で自身を発信することができ、自己プロデューサーが容易となった。企業・個人問わずに「インスタ映え」が決まり文句のようになり、昔以上にビジュアルに重きをおいて物事を発信するようになった。このような状況下において、私たちの今後はますますビジュアルで表現することに注力し、やがてそのスタイルは常套化していくであろう。その中で、表現者であるアーティスト達は、今後どのようなものを身につけ、社会にメッセージを伝えるか、益々注目されることになる。

衣装デザインは、現実的なデザインから非現実的デザインまで人が身につけるということにおいての表現の可能性が大きい。また、飽きられてしまうとすぐに廃棄されるようなファッションとは違う世界である。衣装はアートとしても成り立つ場合も多く、1つの作品に対して込めるメッセージ性がより強く表現される。

表現者であるアーティストが、人々に伝えたいことをストレートに表現でき、彼らの背中を押すことができるような衣装デザインの可能性を今後とも追求していきたい。

[注記]

※ある細長い物質にあまり大きくない外力を与えて伸長したあと、外力を除くと伸びは回復して、ひずみは残らない。完全に伸びが回復する範囲では応用と伸び率は比例して、この比例常数をヤング率という。

[参考文献]

- 1 「基礎被服材料学」成瀬信子著、文化出版局、2012年、pp. 17-21, pp. 20-21, pp. 40-41, pp. 101, pp. 113
- 2 「ファッション辞典」文化出版局、2012年、pp. 61
- 3 「美術手帖(特集 ポスト・パフォーマンス)」美術出版、2018年
- 4 **【Rainych】 Say So -Japanese version- tofubeats Remix | Official Music Video**
(https://www.youtube.com/watch?v=vIIBM_3Rhb0 閲覧日：2021年1月16日)
- 5 HORIPRO DIGITAL ENTERTAINMENT
(<https://horipro-digital-entertainment.jp/talent/%E6%99%AF%E4%BA%95%E3%81%B2%E3%81%AA/> 閲覧日：2021年1月16日)